

今日の説教のポイント<創世記 25 章 1~18 節>

多民族・多宗教の今の世界について、聖書からどう理解するか？

①多くの国民の父、アブラハム (創世記 17 章 4~6 節、12 章 2~3 節)

アブラハムとケトラおよびサラとの間に生まれた子どもたちの系図が記されています(1-4、12-16)。これはアラビア半島に広がった諸民族の祖です。すなわち、ここで言いたいことは、アブラハムはイスラエルの祖だけではなく、アラブの民の祖でもあるのだということです。一番大事なことは、それは神様がアブラハムにされた契約の内容、「あなたは多くの国民の父となる」(12:3)、に適っているということです！

②イサクと彼らの間にはやはり差別がある？

でも、「アブラハムは側女の子どもたちを息子イサクから遠ざけた」(6)、「神は息子のイサクを祝福された」(11)とあるからやはり差別がある、と思われるかもしれません。しかし神様はアブラハムに、「地上の氏族はすべてあなたによって祝福に入る」(12:3)と約束されたのですから、そのことからこれらの言葉も理解しようとしなければなりません。私たちは日本人の信仰者であるわけですが、「差別されている。神様は不公平だ」と思うのでしょうか？ ありませんね。それはなぜかと言うと、今、導かれて神様の祝福の中にあるからです。

③全ての民が主の祝福に招かれている (12:3) — キリストによって！

以上のように、今日の箇所では、アブラハムの子孫であるイスラエルとアラブの民のどちらも神様の祝福の中に置かれています。しかし最後に、「イシュマエルの子孫は…互いに敵対しつつ生活していた」(18)と記されています。これはどう理解したらいいのでしょうか？

「互いに敵対し合う」、これも異民族にだけ言えることではなく、イスラエルにもあてはまる姿であり、全ての人間の姿であるのです。アブラハムの裔(すえ)にあたえられたイエス・キリスト、この方において「敵意という隔ての壁が取り壊され」(エフェソ 2:14)、異なる者が一つにされ、平和が実現されたことを聖書は告げるのです！ どちらが正しいかを主張し合うのではなく、どちらも自らの欠けを思い、その私たちの罪を赦し給うために十字架にかかり給うたイエス様を思うところから民族の違いを超えた平和が実現していくことを聖書は教えているのです。